

「自然由来のエサにこだわった卵・鶏肉」のブランド力強化 株式会社 太田商店（岡崎市）

事業者概要

- 所在地：岡崎市福岡町宇北裏 25 番地 2
- 代表社員：代表取締役社長 原 祥雅
- 設立年：明治 2 3 年創業、昭和 5 3 年法人設立
- 雇用者数：常時雇用 2 5 名、臨時雇用 7 8 名



「らんパーク」敷地内のレストラン等

取組概要

- 【生産（1次）】 採卵鶏、肉用鶏（廃鶏肉含む）の飼育。
- 【加工（2次）】 洗卵は自社工場で実施。精肉は自社加工または委託加工。
プリン、だし巻きたまご、バウムクーヘン、焼き鳥缶、鶏まんなど自社または委託加工。
- 【販売（3次）】 直売所「らんパーク（R.O.ショップ）」、直営レストラン「たま姫キッチンうふ」、
自社オンラインショップ、市内外イベント、道の駅等にて販売。「らんパーク」敷地内には
直売所・レストランのほか卵型トイレや鶏小屋等を設置し、たまごのテーマパークを展開。

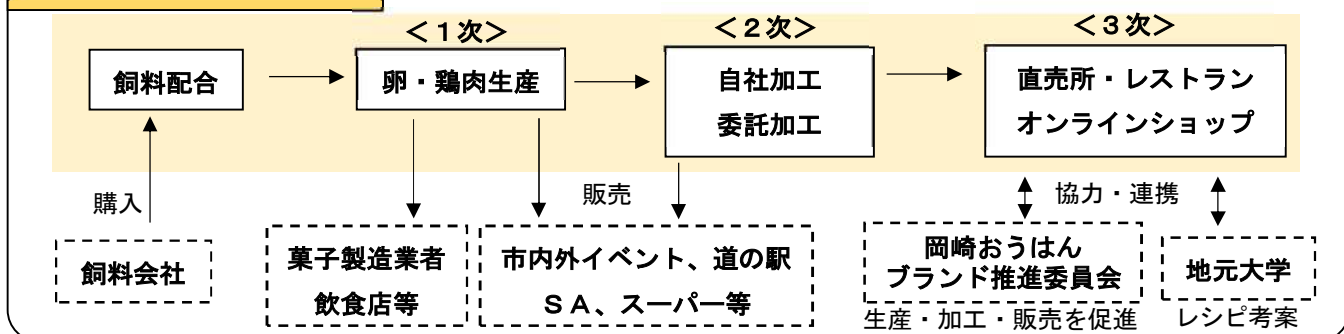
取組までの経緯

飼料にこだわった独自ブランド卵を開発し、さらにブランド力を強化して価格変動に強い卵を作るために、加工品の開発・販売や直営レストラン運営による食べ方の提案、食べる機会の提供に取り組んだ。

取組の特徴、強み

- ・鶏の飼育にはきな粉、魚粉、海藻などできるだけ自然由来の素材にこだわった自社配合飼料を使用している。
- ・元気な若鶏が産む卵にこだわり、自社工場で洗卵・パック詰めし、安心でおいしいブランド卵を生産している。
- ・できる限り近隣地域の食材や事業者とコラボして加工品を開発し、地域活性化を意識している。
- ・自社で一貫した事業を行うことで販売からフィードバックした傾向・結果・ニーズを加工に反映している。
また、生産量の調整も消費量に合わせている。
- ・岡崎おうはんブランド推進委員会とともに「岡崎おうはん」のブランド化に取り組み、活用している。
- ・工場見学や職場体験の受け入れ、子ども食堂への食材提供など食育・地域貢献に取り組んでいる。

ビジネスモデル・連携図



取組の課題

- ・アイデアや計画を実現する連携先（製造事業者、デザイナー、包装加工事業者）を増やす。
- ・BtoB では、関東・関西の商談会をはじめ、営業活動による販路開拓に取り組む。
- ・“たまごかけごはん”、“焼鳥”、“ケージフリー”などインバウンドの追い風にうまく対応する。
- ・岡崎市外、県外での認知度向上に取り組む。
- ・高騰した畜産用飼料穀物に対応する。

課題解決の方法

- ・輸出協力企業とともに生卵の輸出に取り組む。
- ・①SWOT 分析、②顧客とのコミュニケーション強化により、自社の強みを生かしたブランドコンセプトをはっきり打ち出し、自社の規模にあったブランディング施策を決定する。
- ・飼料米など国産に切り替え、為替に左右されずに安定的にエサを供給する。

取組の効果

- ・売上高：1 0 億円（H17）→ 2 1 億円（直近） ・雇用者数：2 0 名（H17）→ 1 0 3 名（直近）
- ・親鶏を有効活用した「岡崎おうはん焼鳥缶」は、2024 年度愛知のふるさと食品コンテストで最優秀賞の知事賞、令和 6 年度優良ふるさと食品中央コンクールで食品産業センター会長賞を受賞し、認知度向上が図られた。

活用した支援策

- ・岡崎市農山漁村発イノベーション推進事業費補助金（R6） ・事業再構築補助金（R6）
- ・畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業補助金（R1） ・農商工連携事業補助金（H20）

今後の展望

- ・新たなメニューや商品の開発を行いながら、市内を中心に P R と販路開拓をする。
- ・卵と親鶏を活用した加工品は、一定の生産量があるため市外への P R と販路開拓をする。
- ・「岡崎おうはん」地鶏の生産量増加に取り組み、より手軽に食べてもらえるよう魅力や価値を広く発信する。

取組者のコメント

地域の特色を活かす 6 次産業化ビジネスでは、「安全・信頼・美味しさ」を追求し商品を提供することは、最も重要な社会的責任と考えています。今後も、時代の新たなニーズへしなやかに対応するため挑戦心を持って励み、「食」を通じて雇用の創出や経済活動の促進、文化の維持等社会貢献を目指します。この活動では多様な人材がそれぞれの能力を発揮しながら、一丸となって革新に取り組み、企業の発展につなげていきます。



こだわりの卵・鶏肉を使った加工品